

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 3月

基準日 定時株主総会 12月31日
剰余金の配当 期末 12月31日
中間 6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先・照会先 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号(〒541-8502)
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
電話(通話料無料) 0120-094-777

公告の方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。(https://www.corp.i-pex.com)
ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、
日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

<https://www.corp.i-pex.com>

I-PEX

検索

IRニュース等、最新の情報は随時
こちらからご確認いただけます。



I-PEX株式会社

I-PEX

第58期 年次報告書

2020年1月1日～2020年12月31日

I-PEX株式会社



「ものづくりソリューションエキスパート」として次代への歩みに貢献します。

代表取締役社長 土山 隆治

第58期(2020年12月期)の業績について

コロナ禍による景気減速の中、電気・電子部品が牽引し、大幅増益を達成

まず、電気・電子部品事業では、リモートワークの普及に伴うパソコン需要の増大や5G(第5世代移動通信システム)の拡大を受けて、高周波・高速伝送特性に優れたコネクタが伸長し、増益達成に貢献しました。併せて、巣ごもり需要によるゲーム機やルーター向けの部品需要も好調に推移しました。また、HDD関連部品は、新型コロナウイルスによるサプライチェーンの混乱等が影響し低迷しましたが、その中でも、サーバー向けの需要は比較的堅調に推移しました。

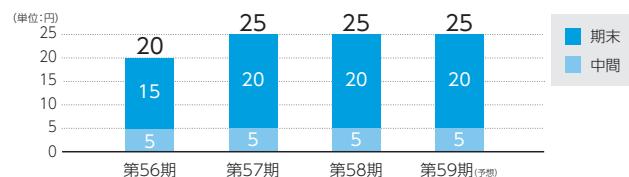
自動車部品事業は、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、特に上半期において自動車メーカーが工場閉鎖や稼働停止等

の措置を講じ自動車生産が落ち込んだことが影響し、大幅に減少しました。下半期に入り、中国や北米が牽引する形で自動車市場が急速に持ち直したことから、車載用センサやコネクタの需要が増加しましたが、上半期の落ち込みを補うには至りませんでした。

設備事業は、景気の先行き不透明感が続く中、半導体メーカーが設備投資を手控えた結果、予定していた受注を獲得するには至らず、低調に推移しました。

以上のように、新型コロナウイルスの影響で自動車部品事業や設備事業は苦戦しましたが、コネクタを中心に電気・電子部品事業が好調に推移した結果、売上高545億円、営業利益29億円、経常利益26億円、親会社株主に帰属する当期純利益11億円となりました。この結果を受け、前期に引き続き期末配当金を1株当たり20円、中間配当を含む年間配当金を25円とさせていただきます。

配当金の推移



業績ハイライト

売上高	54,531百万円 (前期比 0.9% ▲)
営業利益	2,911百万円 (前期比93.4% ▲)
経常利益	2,672百万円 (前期比93.3% ▲)
親会社株主に帰属する当期純利益	1,151百万円 (前期比24.4% ▲)

第59期(2021年12月期)の重点戦略について

電気・電子部品事業

今後、あらゆる分野でデータの更なる高速・大容量化が進展していくことが予想されます。当社は、EMC(Electromagnetic Compatibility:電磁両立性)を実現したフルシールドタイプのコネクタの開発、拡販に注力し、高周波・高速伝送技術を深耕することにより、更なる成長を実現してまいります。今後は、高機能モバイル機器向けに加え、サーバー等に用いられる光電変換用コネクタ分野への展開も進めてまいります。

また、トルクセンサについては、人協働ロボットの市場拡大を見据え、新たな顧客開拓を進めており、その成果が少しずつ出始めております。

自動車部品事業

2021年は、新型コロナウイルスの感染拡大で低迷した自動車生産が回復基調になると予想されることから、車載用センサやコネクタ等の自動車部品需要が伸長すると見込んでおります。一方、足下では車載用半導体の供給不足懸念もあり、今後の市場動向を注視してまいります。

自動車業界全体の方向性として、CASEに代表される電動化やコネクテッド化等の進展がより一層加速してまいります。当社といたしましても、そのような状況を好機と捉え、新たな電子制御ユニットやセンサ等のモジュール部品の受注獲得に注力してまいります。

設備事業

半導体製造装置関連は、半導体需要の増加が期待されることから、技術提案型営業の強化、サービスサポートの充実等による受注獲得に努めてまいります。特に、今後市場の拡大が予想されるパワー半導体関連向け装置の拡販に注力したいと考えております。また、当社グループの保有する種々の要素技術を活用した新たな設備の外販を目指し、準備を進めてまいります。

MEMSデバイス

匂いを「見える化」するMEMS匂いセンサにつきましては、いよいよ本格的にビジネスを開始する段階に入っております。スマートフォンに接続し、身近な匂いを手軽に計測できるパーソナルモデルの「noseStick」におきましては、2021年の販売開始を予定しております。また、新たな取り組みとして、MEMS技術を活用したファウンドリビジネスへの展開も視野に入れた活動を推進してまいります。

「ものづくりソリューションエキスパート」としてグローバル市場へ向けて新たな価値を提供します。

2020年8月、当社は社名を第一精工株式会社からI-PEX株式会社へ変更し、新たなスタートを切りました。

今後は、グローバル市場で閃きや驚きという価値を提供する「ものづくりソリューションエキスパート」として、スピーディかつフレキシブルなものづくりシステムの下、業界や領域を超えて世界の最先端で次代の可能性を拓くお客様とともに、より良い未来を想像し、人が愛してやまない商品開発を支えてまいります。

私たち一人ひとりがI-PEXブランドを体現し、お客様の想像を超える独創的な価値を創造することで、お客様から一番に選ばれるパートナーとなるべく、一層の努力を積み重ねてまいります。

株主の皆様には今後とも当社グループへのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

第59期計画

売上高	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
577 億円	31 億円	20 億円

電気・電子部品事業

より正確に、より緻密に。
「つなぐ技術」が
ここにはあります。

コネクタ

主にノートPC、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末向けにコネクタ(接続部品)を開発・製造し、世界市場に展開しています。最先端技術や規格に適合するコネクタをいち早く開発し市場をリードすることに力を入れており、USBやThunderbolt™などの高速インターフェイス規格、高精細ディスプレイ・カメラ、Wi-Fi6等のワイヤレス伝送などを採用する高性能電子機器に当社のコネクタが多数採用されています。5G、IoT、自動車、医療機器やロボット、ドローンなど幅広い市場において高速伝送ソリューションによりお客様のニーズにお応えしています。



イメージ

EMC (電磁両立性) を実現したコネクタ「ZenShield™」シリーズを展開

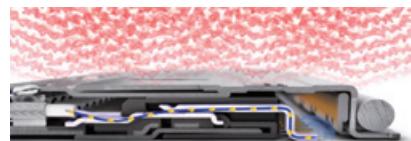
コネクタを全方位覆うことで、コネクタ内部からの電磁ノイズの発生とコネクタ外部からの電磁ノイズの干渉を防ぎ、デジタル信号の品質を高めます。

データの高速度・大容量化が進展する中、ZenShield™コネクタが活躍するシーンは益々広がっています。

Stay away from noise with ZenShield™

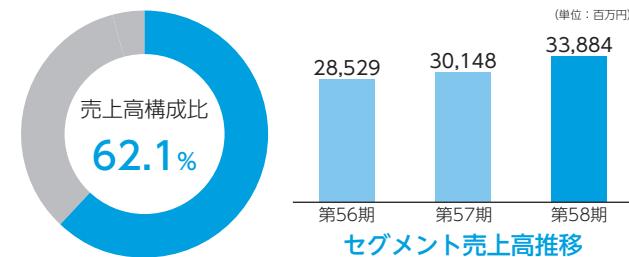


コネクタから外部にノイズを発生させない EMI (電磁干渉) 対策



コネクタ内の伝送信号を外部ノイズから守る EMS (電磁感受性) 対策

EMC (電磁両立性)



HDD用機構部品

データセンター向けサーバーやゲーム機などの記憶装置として、大容量化が進むHDD(ハードディスクドライブ)には今後も根強い需要が見込まれています。当社は、お客様との共同開発により世界で初めて量産化した超精密樹脂部品ランプなど、進化が続くHDDに不可欠の機構部品を供給しています。



ランプとはディスク面が接触により傷つくことを防ぐため、データを読み書きする磁気ヘッドを待機格納させる部品です。

静電容量型トルクセンサ

各種ロボットや、自動組立装置の回転動作時に発生するトルクを検出し、制御するためのセンサです。静電容量方式を採用したシンプルな構造で、従来の歪ゲージ式トルクセンサと比べ量産性やコスト面での飛躍的な向上を実現。お客様のご要望に応じた自由なデザインに対応でき、トルク検出を必要とする幅広いシーンでの活躍が見込まれています。



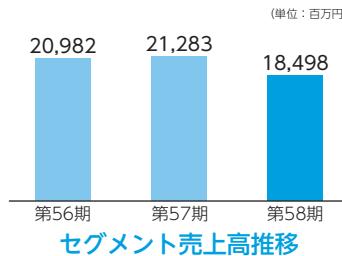
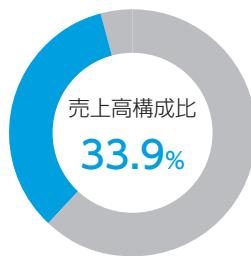
コネクタの自動挿入を実現

静電容量型トルクセンサ“ESTORQ”を内蔵したロボットアームに取り付けるエンドエフェクタ。ES-Gripperを活用することで、コネクタの自動挿入が可能になり、工場で発生する人的エラーと修正作業の削減に貢献いたします。



自動車部品事業

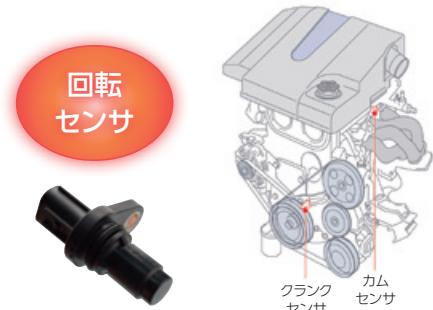
高い技術力に裏打ちされた
高品質な自動車部品を
安定的に供給。



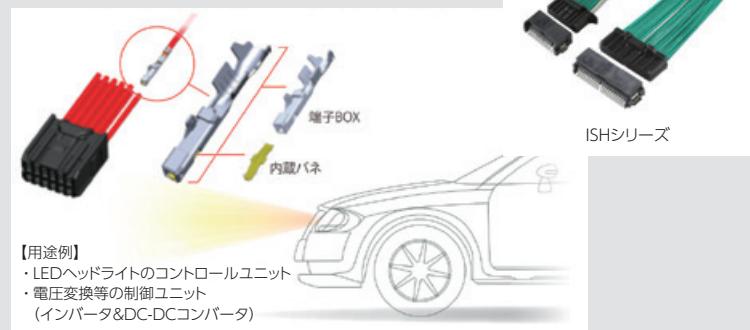
クルマは今や、電子機器の集合体といっても過言ではありません。安全かつ快適な走行のために過酷な条件下でも性能を維持する高感度センサが必需品となっています。また、衝突回避支援システムや自動運転技術の導入に伴いさらに電子制御化が進むクルマには他の電子機器同様、コネクタ(接続部品)などの電子部品が多数使用されています。当社は、センサやコネクタをはじめ各種制御ユニットなど、様々な車載向けソリューションを提供しています。

■ 各種センサ

エンジンのクランクやカムの回転角と位置を検出し、点火タイミングや燃料噴射の制御に利用することでCO₂の排出抑制や燃費向上などに貢献するセンサ。このほか圧力センサや電流センサなどクルマの制御に欠かせない部品を供給しています。



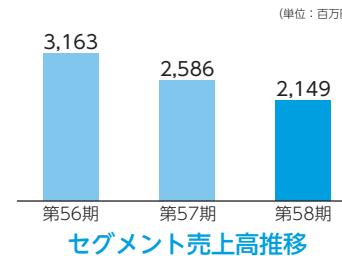
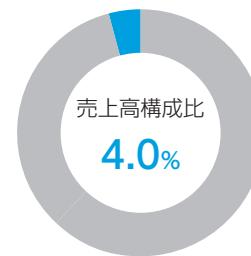
熱と振動に強いSMTコネクタ LEDヘッドライト向けに採用が拡大



本体BOX部に高強度の内蔵パネを組み込むことで、高い接続信頼性を実現。

設備事業

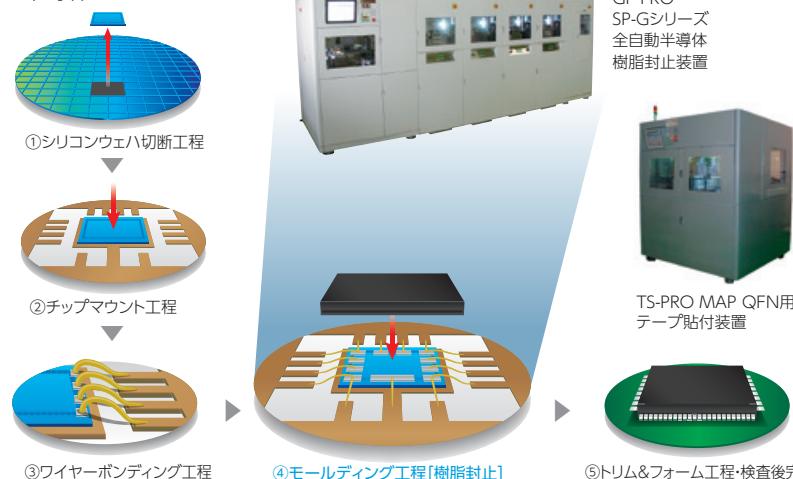
半導体生産に欠かせない
モールドイングを
高精度かつスムーズに。



1980年、当社は精密金型技術を活かし、世界で初めて全自動半導体樹脂封止装置を発売しました。以来、国内外のお客様に装置を納入しながら技術の向上を図り、現在では半導体製造関連装置、樹脂成形周辺機器なども供給しています。大判化、薄型高密度などお客様の多用化するニーズにこれまで培った独自のソリューションでお応えし、PC、モバイル、車載、LEDなどの幅広い業界で実績と信頼を積み重ねています。

■ 半導体生産工程

半導体ができるまで



GP-PRO SP-G series

3つのポイント

1	2	3
製品品質を高める 粉塵対策	安定生産を実現する IoT対策	DUALPOT対応による 大型モジュール成形

オートモールド40年の歴史と実績
お客様の課題解決のためにアップグレードを重ねてきた「SPシリーズ」から、最新鋭機「SP-G」が誕生しました。
徹底した粉塵対策を施し、民生用ICから車載用IC、IoT機器まで、幅広い高品質ニーズに対応します。

トピックス



I-PEXキャンパスに「金型棟」を建設

2020年6月に開設したグループ中核拠点「I-PEXキャンパス」において、金型を製造するための工場である「金型棟」を2020年12月より着工し、2021年12月の竣工、2022年春の操業開始に向けて建設を行います。「金型棟」には、現在福岡県の2工場に分かれている金型製造機能を集約、自社での量産に使用するための生産設備である金型を製造し、当社グループの体制強化を図ります。

2021年に匂いセンサ「noseStick」の販売を開始予定



noseStick

ノーズスティック

スマートフォンに接続して、身近な匂いを手軽に計測できるパーソナルモデル



nose@MEMS

ノーズメムス

様々な匂いの識別を実現するプロフェッショナルモデル

「ものづくりソリューションエキスパート」へ

Global One I-PEX

グローバルでの飛躍的成長を目指して
2020年8月1日、私たちは第一精工からI-PEXへと生まれ変わりました。

Innovative Product development & Engineering solutions eXpert

I-PEXは、グローバル市場で閃きや驚きという価値を提供する「ものづくりソリューションエキスパート」を意味します。

To be the Sharpest 最・尖端を、世界へ。

私たちが目指すもの。それは、鋭敏な感性で次代への突破口を開き、世界をときめかせ、未来をきらめかせる、最・尖端。社会を想い、明日を想い、時代のニーズの一步先を行く新しい価値を創造することで驚きと、喜びと、感動を、世界に届けます。世の中になかったもの、誰もつくれなかったものを実現していく集団。それが私たちI-PEXです。



■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2020年12月31日現在	前期 2019年12月31日現在
資産の部		
流動資産	35,925	36,030
固定資産	45,982	44,391
有形固定資産	43,341	41,324
無形固定資産	429	500
投資その他の資産	2,212	2,566
資産合計	81,908	80,421
負債の部		
流動負債	17,991	16,468
固定負債	14,401	14,157
負債合計	32,393	30,626
純資産の部		
株主資本	49,502	48,819
資本金	10,968	10,968
資本剰余金	10,513	10,513
利益剰余金	28,020	27,337
自己株式	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	△ 44	909
非支配株主持分	58	66
純資産合計	49,515	49,795
負債純資産合計	81,908	80,421

■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2020年1月1日から 2020年12月31日まで	前期 2019年1月1日から 2019年12月31日まで
売上高	54,531	54,019
売上原価	37,584	38,550
売上総利益	16,947	15,468
販売費及び一般管理費	14,036	13,962
営業利益	2,911	1,505
営業外収益	681	359
営業外費用	920	482
経常利益	2,672	1,382
特別利益	—	496
特別損失	822	534
税金等調整前当期純利益	1,849	1,344
法人税等合計	706	421
非支配株主に帰属する当期純損失	△ 8	△ 2
親会社株主に帰属する当期純利益	1,151	925

■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当期 2020年1月1日から 2020年12月31日まで	前期 2019年1月1日から 2019年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,195	5,994
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,632	△ 8,485
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,558	7,937
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 468	△ 136
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 462	5,309
現金及び現金同等物の期首残高	12,182	6,872
現金及び現金同等物の期末残高	11,719	12,182

■ 株式の状況

(2020年12月31日現在)

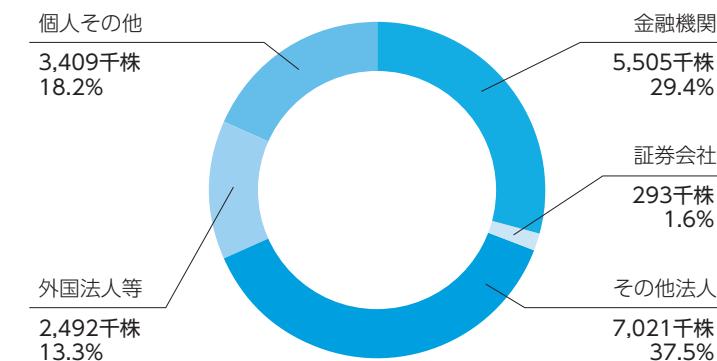
発行可能株式総数 20,000,000株
発行済株式の総数 18,722,800株
株主数 4,792名
大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社ディー・エム・シー	6,821,400	36.43
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	2,154,400	11.50
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	998,600	5.33
株式会社日本カストディ銀行(信託口9)	691,600	3.69
I-PEX従業員持株会	571,480	3.05
特定有価証券信託受託者 株式会社SMBC信託銀行	499,400	2.66
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE	194,453	1.03
JP MORGAN CHASE BANK 385781	158,266	0.84
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED 131800	150,000	0.80
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	149,800	0.80

(注)持株比率は自己株式(385株)を控除して計算しております。

■ 所有者別株式分布状況

(2020年12月31日現在)



■ 会社概要

(2020年12月31日現在)

商号 I-PEX株式会社
設立 1963年7月10日
本社所在地 〒612-8024
京都市伏見区桃山町根来12番地4
資本金 109億6,800万円
従業員数 単体:2,008名 連結:5,843名
主要取引銀行 京都銀行、三菱UFJ銀行、
三井住友銀行、みずほ銀行

■ 役員

(2021年3月30日現在)

代表取締役社長 土山 隆 治
常務取締役 緒方 健 治
常務取締役 原田 隆
常務取締役 原 昭 彦
取締役 小西 玲 仁
取締役(監査等委員) 橋口 純 一 *
取締役(監査等委員) 庭野 修 次 *
取締役(監査等委員) 若杉 洋 一 *
*(社外)